

地域と共生する大学づくりのための全国縦断熟議
「熟議2012 in 明治大学」報告書（抜粋版）



熟議
2012

明治大学

地域の活性化について考える

—地域との協働—

明治大学は社会連携機構を創設し、様々な地域と連携学業を実施してきました。共通する課題は地域の活性化であり、関係する自治体、市民、NPOとともにそれぞれの地域が抱える課題について熟議します。

【テーマ】

- ① 地域の再生(を考える)
- ② 地域のブランド(をつくる)
- ③ 地域とのつながり(を考える)

2012年3月31日(土)
13:00~17:30
明治大学駿河台キャンパス

●対象：テーマに関心のある方60名(聴衆のみの参加もできます)
●参加費：無料(事前申込制)
●主催：明治大学、文部科学省
●問合せ先：明治大学社会連携事務局
TEL: 03-3296-4539

熟議2012 明治大学

地域の活性化について考える

—地域との協働—

【テーマ】

- ① 地域の再生(を考える)
- ② 地域のブランド(をつくる)
- ③ 地域とのつながり(を考える)

スケジュール

- 12:30~13:00 受付
- 13:10~13:15 開会(30分前準備 明治大学職員)
- 13:15~13:30 テーマの検討
- 13:30~14:30 資料配付
- 14:30~14:45 休憩
- 14:45~15:15 集中熟議
- 15:15~16:30 昼休憩
- 16:30~17:30 発表・議論
- 17:30~17:30 休憩
- 18:00~19:30 懇談会(飲み会)

1 事前準備

参加申込、申込受付、会場案内、資料準備、会場設営

2 オープニング

開会の挨拶、テーマの紹介、当日のスケジュール説明

3 集中熟議

議論の開始、議論の進行、議論のまとめ

●「熟議2012 in 明治大学」参加申込書(高申込締切日: 2012年3月14日(水))

●申込：各テーマについて60名以内(定員)、定員：各テーマごとに定員あり。各テーマに20名以内(定員)。
① e-mail: js@mj-u.ac.jp ② FAX: 03-3296-4547 ③ TEL: 03-3296-4539

氏名	フリガナ	性別	年齢	所属(所属先が大学の場合は、所属先を明記)
〒		番		
連絡先	住所	TEL	E-mail	
所属	〒	番	所属先が大学の場合は、所属先を明記	
連絡先	住所	TEL	E-mail	

※本学主催のイベントです。本学主催のイベントです。本学主催のイベントです。

開催概要

日時 2012年3月31日(土) 13:00~17:30
会場 明治大学駿河台キャンパス・アカデミーコモン2階 A4~A6会議室
主催 明治大学, 文部科学省
テーマ 「地域の活性化について考える~地域との協働~」

サブテーマ・グループキーワード

- I 地域の再生(を考える)
グループ①「被災地支援」
グループ②「過疎地域」
- II 地域のブランド(をつくる)
グループ③「地域デザイン」
グループ④「市民参加」
- III 地域とのつながり(を考える)
グループ⑤「地域連携」
グループ⑥「地域での学び」
グループ⑦「行政と企業の協働」
グループ⑧「地域見守り」



趣旨

明治大学は2010年10月に社会連携機構を創設し、生涯教育と地域連携を推進する体制を構築している。また、生涯教育の拠点であるリバティアカデミーは年間400講座、2万人を超える市民が学ぶ場であり、地域連携については創立者出身地(鳥取県、山形県天童市、福井県鯖江市)やキャンパス設置自治体をはじめ、多くの地域で実施している。とりわけ文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」(2007年~2009年)は、5地域(長野県飯田市、群馬県嬲恋村、鳥取県、和歌山県新宮市、長野県長和町)の活性化に貢献し、受講生の学習意欲や就業・社会参加への意欲を高めるきっかけとなったプログラムである。地域の活性化は全国の地域に共通する課題であり、多くの地域との連携事業をとおして、地域の抱える課題に共通点があることから、様々な世代、地域の人々と大学関係者がともに地域の活性化について考える場を「熟議2012in明治大学」において提供する。

参加者

熟議参加者 77名, 傍聴者 20名, スタッフ等関係者 17名, 【合計 114名】

参加者の属性

教育関係者 27名, 学生・院生 21名, 行政・公的機関 20名, NPO・NGO 7名,
企業・自営業 13名, その他 9名

スケジュール

13:00 開会

13:05

主催者あいさつ

(明治大学副学長・社会連携機構長 福宮賢一)

主催者あいさつ

(文部科学省生涯学習政策局長 合田隆史)



13:15

「熟議 2012in 明治大学」の趣旨とテーマ等の説

(明治大学地域連携推進センター副センター長

13:30 前半熟議 (60分)



や問題点を整理・分類し、3~4つの重要なしぼる。

①自己紹介をする(所属・名前など)。

②課題を書き出す。

・各グループのテーマに関する意見・問題点などを出し合う。

・ポストイット1枚に1件(1~2行程度の短い単語やフレーズ)で書く。

③課題や問題点を整理し、それぞれの関係や背景・原因などについて議論する。

・出された課題や問題点について意見交換をしながら、その内容や背景を考える。



14:30 休憩 (15分)

14:45 後半熟議 (90分)

④課題や問題点の解決方法や対応策について意見交換し、議論を深める。

・解決方法や対応策について意見を出し合う。

・解決方法や対応策を整理し、今後に向けて何ができるか、何をしたいかなどを考える。



16:15 まとめ(15分)

⑤全体会での発表内容の検討。

⑥発表用シート(A4・2枚)を作成する。

1枚目:グループテーマ, 主な問題点・課題

2枚目:解決策・対応策の提言

⑦感想

16:30 全体会(グループ発表)

8グループ(各グループ5分以内)

・発表用シートを映しながら発表する。



17:20 講評

(文部科学省生涯学習推進課長 平林正吉)

講評・閉会あいさつ

(明治大学社会連携機構副機構長 大友純)

17:30 閉会



18:00~19:30 意見交換会・交流会

「熟議 2012in 明治大学」報告資料(詳細)は
<http://www.meiji.ac.jp/social/6t5h7p00000c6jp0.html>
で公開しています

創業者出身地への学生派遣プログラム（鳥取県）

日程 2012年9月10日（月）～9月13日（木）

テーマ 「創業者出身地・とっとり活性化プロジェクト～鹿野町からの発信～」

趣旨

明治大学地域連携推進センターでは、本学創業者出身地（鳥取県、山形県天童市、福井県鯖江市）と連携協力に関する協定を締結し、多様な連携事業を推進しています。鳥取県とは、岸本辰雄先生の出身地であることがご縁で、鳥取県・鳥取大学・明治大学の3者で連携協力に関する協定を締結し、さまざまな連携事業を実施しています。

このたびは創業者出身各地域について、学生と地域の人々の交流・連携を通じた「地域活性化への提言」を行う学生派遣プログラムを実施しました。鳥取県においては、活動を鳥取市鹿野町に絞り、鳥取県・鳥取市・NPO いんしゅう鹿野まちづくり協議会から5つのテーマ・課題が提示されました。このことに対する解決策・対応策を提案すべく、学生が主体となって事前調査・研究、グループワークを行い、鹿野町における調査・取材、グループワークなどを経た後、地域住民・行政・関係団体などと「熟議*」形式で課題や問題点を絞り込み、その成果を「具現化案」にまとめ鳥取県・鳥取市・いんしゅう鹿野まちづくり協議会に報告しました。

*「熟議」形式とは、地域、職業、立場、年齢、性別を越えたさまざまな人々が、対等な立場で、共通のテーマについて「課題や問題点」を整理し、議論を重ね、「課題や問題点の解決方法や対策」について意見交換しながら「解決策・対応策の提言」をまとめる協働作業を行う場のこと。

グループテーマ・参加者 学生18名（男子8名、女子10名） ◎リーダー

①グループ 鳥取・鹿野のおもてなし

◎松尾太博（経営学部4年）、張斯維（大学院法学研究科2年）、
朴何林（文学部2年）、李倫志（政治経済学部1年）

②グループ 福祉政策を考える（買物弱者対策など）

◎目黒五月（法学部3年）、前田晃穂（法学部3年）、浅野友花（政治経済学部1年）

③グループ 「四季薫るまち鹿野」のプランニング（1年を通じて訪れるまちづくり）

◎阿部紘明（政治経済学部4年）、山口祐（国際日本学部4年）、
鈴木琴美（政治経済学部3年）、木村枝里（商学部1年）

④グループ 空き家活用（企業のサテライトオフィスなど）

◎柴田研三郎（商学部4年）、本橋勇次郎（法科大学院法務研究科3年）、穂坂彩乃（理工学部4年）

⑤グループ 都会で売れる「鹿野ブランド（農業・文化・工芸など）」づくり

◎田中宣成（大学院グローバル・ビジネス研究科1年）、佐伯爽（農学部3年）、
植村正之（政治経済学部2年）、包辰（農学部2年）

大学における派遣学生への事前説明会及びグループワーク（8月1日～）

プログラムの趣旨、意義を確認。鳥取県東京本部・大場本部長およびNPOいんしゅう鹿野まちづくり協議会・小林副理事長から鳥取県、鹿野町のレクチャーを受けたのち、第1回目のグループワークを実施しました。また、現地研修前に鳥取県東京事務所、アンテナショップ訪問など取材・調査、資料収集、グループワークを随時行いました。



鹿野町におけるプログラム開始（9月10日）

鳥取市鹿野に到着後、鳥取市鹿野町総合支所においてオリエンテーションを実施しました。鳥取市鹿野町総合支所・中川所長から歓迎のあいさつと、明大生に対する熱い期待が述べられました。本学の学生各チームからの挨拶と、鳥取大学学生による挨拶を行いました。オリエンテーション終了後には、NPOいんしゅう鹿野まちづくり協議会のご案内のもと、鹿野町を散策しました。これまで事前研修で調べてきた鹿野町を実際に見て、学生たちも楽しみそうです。



担当課・熟議参加者との交流会（9月10日）

鳥取県担当部課職員，鳥取市担当部課職員，鹿野町総合支所担当部課職員，NPOいんしゅう鹿野まちづくり協議会メンバーの方々にお集まりいただき、2時間半におよぶ熟議を行いました。各グループとも、事前研修で考えてきた案を披露しながらも、現地の方々の意見を聞いて、次の日以降の現地での調査対象を検討しました。「鳥取のおもてなし」がテーマのチームでは、鳥取大学の学生からも参加に關達な意見交換が行われていました。



熟議終了後、宿舎に戻ると明治大学校友会鳥取地域支部支部長・石谷様から鳥取県名産「二十世紀梨」の差し入れをいただき、夕食時においしくいただきました。

現地での取材及び農業体験（9月11日）

2日目。午前中は各グループに分かれて調査や研究を行います。グループごとに徒歩や自転車，担当者の車両を利用し、精力的に聞き取りを行っていきます。午後からは古仏谷地区へ移動して、鹿野町でも数少ないしょうが生産農家である原田さんに、これまでの取り組みや今後の展開などのお話を聞きながら、そばの花摘みを行いました。



市民参加バーベキュー（9月11日）

夕方からは、鬼入道地区へ移動して市民参加のバーベキューを実施しました。昼間にヒアリングさせていただいた方や、鹿野町でまちづくりに関わっている方など多くの方にご参加いただき、交流しました。この日の夜は、鬼入道にあるお試し定住施設「鬼楽庵」に学生全員が宿泊し、夜遅くまで議論を重ねていきます。



現地での取材及び日本文化体験（9月12日）

3日目も、午前中からグループごとに取材をおこなうとともに、希望のグループはそば打ち体験を行いました。鹿野町で参加出来る日本文化体験として、鳥取県の支援により実施しました。そば打ち初体験の学生も多かったようですが、自分の打ったそばを食べて、午後からの調査も元気よく取り組んでいました。



2回目の熟議（9月12日）

夕方からは、2回目の熟議を実施しました。ここでも多くの方々にお集まりいただき、現地調査を踏まえて、熱心な意見交換がされ、最終日の中間報告会へ向けて準備を行っていきます。この日は、明け方近くまで中間報告会の準備するグループもありました。



中間報告会（9月13日）

最終日の午前中、宿舎を出発して、中間報告会の準備を始めます。そして、午後からは本番です。市民や関係者など50名以上集まる会場にて、5グループの発表が行われました。各グループ10分の発表の中に対して、県や関係者からご講評をいただきました。



鳥取県、鳥取市、鹿野町のみなさん、また学生の取材にご協力くださったみなさん、熱いご支援ご協力いただき、誠にありがとうございました。



(鳥取県立 県民文化会館前
岸本辰雄先生顕彰碑)

創立者出身地への学生派遣プログラム（鳥取県） 最終成果報告発表会

日程 2012年12月15日（土）

会場 しかの心

鳥取県での学生派遣プログラムの成果報告発表会を、鳥取県鳥取市鹿野町「しかの心」で実施し、鹿野町をテーマにした地域活性化の提案を行いました。

鳥取県での学生派遣プログラムは、現地フィールドワークを9月10日～13日まで実施し、学生と地域の人々の交流・連携を通して絞り込み、最終成果報告発表会にて発表しました。

本プログラムは、2009年に協定した鳥取県・鳥取大学をはじめ、鳥取市、NPO いんしゅう鹿野まちづくり協議会の方々の協力により実施しました。

最終成果報告会参加者 14名（男子7名、女子7名）

- ①グループ 鳥取・鹿野のおもてなし チーム名「トラベラー」
松尾太博（経営学部4年）、朴何林（文学部2年）
- ②グループ 福祉政策を考える チーム名「マンゴプリン」
前田晃穂（法学部3年）、浅野友花（政治経済学部1年）
- ③グループ 「四季薫るまち鹿野」のプランニング チーム名「From Chiba」
阿部紘明（政治経済学部4年）、山口祐（国際日本学部4年）、
鈴木琴美（政治経済学部3年）、木村枝里（商学部1年）
- ④グループ 空き家活用 チーム名「空き家と私と鳥取と」
柴田研三郎（商学部4年）、穂坂彩乃（理工学部4年）
- ⑤グループ 都会で売れる「鹿野ブランド」づくり チーム名「鹿野ブランドづくり隊」
田中宣成（大学院グローバル・ビジネス研究科1年）、佐伯爽（農学部3年）、
植村正之（政治経済学部2年）、包辰（農学部2年）

最終成果報告会および交流会

学生たちは「とっとり活性化プロジェクト～鹿野町からの発信～」をテーマに、①鳥取・鹿野のおもてなし、②福祉政策を考える、③「四季薫るまち鹿野」プランニング、④空き家活用、⑤都会で売れる「鹿野ブランド」づくりの5グループに分かれ、成果発表しました。発表では、フィールドワーク最終日に実施した中間報告から改めてまちづくりに関する調査や研究を実施してまとめた最終報告書をもとに、提言を行いました。鳥取県文化観光局交流推進課・山下大治様からは「前回の中間報告から、さらに調査や取材を行って、今後の展開を考えることが出来るようになった」とのご講評頂きました。

その後の交流会では、NPO いんしゅう鹿野まちづくり協議会・佐々木会長より明治大学社会連携事務室鹿野分室の看板贈呈式が行われ、この4か月間の交流を振り返る温かい時間となりました。



鳥取県の皆さま、ご支援ご協力いただき、誠にありがとうございました。